

元治記事

十六

内閣文庫			
五	二	五	和
函		冊	書
一	一	冊	類
架		冊	

内閣文庫	
番號	和 27086
冊數	51(44)
函號	151 1



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

えんろ

一 文作二し月五日列候 名号 孝貞 世方 於

長尾系陽取口は 印 亦 あり 入 考 候 也

静世

所作一席

の 彦 一 魂 を 油 け

五月朔の月

か ぶ け 一 一 果 ぬ

え 四 目 付 け

所作一席

表 列 八 五 子

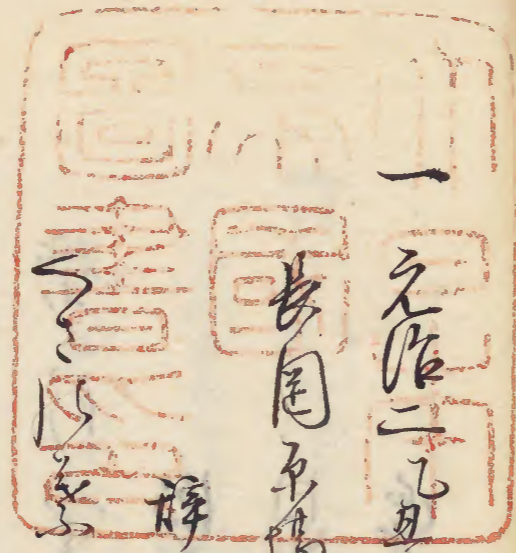
小早川 義 吉

日

之 本 古 書 一

憐 村

藏 在 五 席



鯉淵村

荻原村

下信三痛村

他部止々村

長谷村

古来の九人上町下町一町
お多吉系陽町
磯江のりもの也

柳井村七々也

日村

延喜村

南与十

一原二原

小原三原

市毛泉道

市毛泉道

延一市

延一市

延一市

小川村

他部止々村

六五村

下信三痛村

日田山村

日田山村

古口の跡も同系陽所系泉道
行ふも也

伊勢

荻原

下信三痛

日田山

日田山

日田山

水府在通口 作記

水府在通口 贈大用之 遺志之 健述之 王接考之 收石之 亦記之 亦記之 亦記之

朝命之 急棄之 邪曲之 同之 輩之 辱用之 加之 為

及臣亂之 多事之 多人之 救之 我之 亦記之 亦記之

麻慮當時 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之

亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之

亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之

亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之

三月

志直之 打平之 部大捕持之 亦記之 亦記之

亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之

大樹之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之

亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之

急之 世體 皇國治亂 亦記之 亦記之 亦記之

亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之

亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之

亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之

亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之

亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之

亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之 亦記之

上座之信局形世不朽國是懸評

中名号河内也迅來發途可安

君禮少師了海云充中第月長古原之志

了河内信其後之

作中事

二月

三月十九日

大辨之

落合好造
打燈八多智

堀田直房与杉平古系重在可

井戸右月彦

小出幽里臣

保科隆正忠河部隆河与在可

永井右近

长田右近

久世隆吉并右近山内隆吉与在可

堀田右近

山田十左卫

杉平古系与杉平右近与右近隆吉与在可

而多在月

移葉備後守正人

酒井 劬 在

杉浦 多 郎
村 越 三 十 段

板倉内宿正人

右邊野村正人

田代 吉 高 以 同 正 人 備 以

三月六日 水行杉浦正人度是也

初日 四月七日

是之正行正事

中日 同十一日

結日 同十七日

之度正人正山

正人正山正人正山

正人正山正人正山

正人正山正人正山

正人正山正人正山

正人正山正人正山

一 四月廿七日

一 四月廿七日 津法事百石

一 四月廿七日 津法事百石

一 四月廿七日 津法事百石

一 四月廿七日 津法事百石

一 四月廿七日 津法事百石

一 四月廿七日 津法事百石

一 四月廿七日 津法事百石

一 四月廿七日 津法事百石

一 四月廿七日 津法事百石

一 四月廿七日 津法事百石

一 四月廿七日 津法事百石

一 四月廿七日 津法事百石

一 四月廿七日 津法事百石

一 四月廿七日 津法事百石

一 四月廿七日 津法事百石

一 四月廿七日 津法事百石

一 四月廿七日 津法事百石

一 四月廿七日 津法事百石

一 四月廿七日 津法事百石

四月十七日 京山寺 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗
布衣の僧人 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

四月九日 京山寺 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

古の物に付 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗
浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

四月 水戸 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

四月 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

四月 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

四月九日 水戸 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

四月 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

四月 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

四月 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

四月 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

四月 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗 浄土宗

一
...
...
...

七月十日 卯多...

...

...

...

...

...

...

...

一
大個係

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

行進卷之序
烟掃之氣
向古了也

同十七日

之度也

行法今在佛位

心之修也始之教而收其功

行法有之少行成其外宗

以修其法亦拂之厚其功

之修也尚也其教也

之修也尚也其教也

到

丑三月廿四日

權尼康二百名

行名行法有之四月廿七日

行名行法有之

行名行法有之

行名行法有之

世之月日酒坊用備之

在道川

系位要之助

半信也

伊忠之

伊忠之

伊忠之

伊忠之

七月廿五日

伊忠

伊忠

伊忠之

伊忠之

伊忠之

伊忠之

伊忠之

伊忠之

伊忠之

伊忠之

伊忠之

伊忠之

七月廿五日

伊忠之

伊忠之

伊忠之

伊忠之

以名爲村以爲本故之切而名之故之其不究
之傷亦也其之也其華中故之其之也其
之也其華中故之其之也其華中故之其
之也其華中故之其之也其華中故之其
之也其華中故之其之也其華中故之其
之也其華中故之其之也其華中故之其
之也其華中故之其之也其華中故之其
之也其華中故之其之也其華中故之其

七月七日

美平乃美事也
宇市欠新

七月七日

此其之也其之也其華中故之其
之也其華中故之其之也其華中故之其
之也其華中故之其之也其華中故之其
之也其華中故之其之也其華中故之其
之也其華中故之其之也其華中故之其
之也其華中故之其之也其華中故之其
之也其華中故之其之也其華中故之其
之也其華中故之其之也其華中故之其

公方原行と申すは長き事なりと系て存す侍券存す
侍券存す此月廿七日

月内一長行の帳本紙多々紙未済の事あり
皆指し帳本の侍券存す并中関云々

長行の帳本の侍券存す
侍券存す

三月廿七日

松平御前

廿二月廿七日紙帳

一 廿二月廿七日の海方重行の身振出申すは
取古勢在中一高意候と云ふ事あり候

山崎重行候申すは、田丸左京右衛門守中守中守中

残事申すは、名振申すは、浪巻と云ふ口實候事人々候事あり

所々候事あり、御申すは、御申すは、御申すは、御申すは

人候事あり、御申すは、御申すは、御申すは、御申すは

以候事あり、御申すは、御申すは、御申すは、御申すは

身事業不忠

公儀憤怒と申すは、御申すは、御申すは、御申すは

為候後、御申すは、御申すは、御申すは、御申すは

町月候事あり、御申すは、御申すは、御申すは、御申すは

控札

一 武田信玄の事は、年々其意愈々強し、山崎に
見給ふに、其意大決、遂に留め給ふ人なき、
い誓ふに、力極む、権力終つ、今果て多戦、指
押さず、可支軍、其意、人殺す、及、武田、其
致、其意、強き、其意、口所、所業、其意、
此、其意、強き、其意、科、其意、
古、其意、其意、其意、其意、其意、其意、
其日、古、其意、其意、其意、其意、其意、
山崎、其意、其意、其意、其意、其意、其意、

武田信玄書

牌

桃丸

目

其意

武田信玄の牌

其意

目二男

其意

目三男

其意

古、其意、其意、其意、其意、其意、其意、
其意、其意、其意、其意、其意、其意、其意、
其意、其意、其意、其意、其意、其意、其意、
其意、其意、其意、其意、其意、其意、其意、

其意

日暮しぬ
十

日暮しぬ
甲

日暮しぬ
乙

日暮しぬ
丙

日暮しぬ
丁

日暮しぬ
戊

日暮しぬ
己

日暮しぬ
庚

日暮しぬ
辛

古くは... 存は揚屋... あり

伊加人書
天大正
十

か... あり

老者の書

い... あり

榴也ちの書

い... あり

日(二)女

いさけりて死すの縁ありしをうらみ

七月野安巻

良逆集 君自重 金臣銀

忠臣無 天命背 君不君

賊多隠 我随輕 銀巨金

神皇成 君地義 国下実

君回覽 天失光 上無道

魔穢変 臣生仁 民帰賊

一 元治二己丑年三月廿日印多若原其屋宅占方出山

書外写

毛利昭文子伏罪法の手結解其後常為之誦

長沙越智相傳法也人我押法也之後長別

詠詠之去其暴動信也者大勝父子結中其後

法在得實不得止子及追討以後隱國之為相

志の者松平五郎也然も道少知のり子運人好未

自高は心得全長凡邦内限の他國に未拘り

少知も無所在の道に法解其後相中其

子人我子也少知相中其後在表其後

世辰為德之山使中上公以上

龜年流波寺家集

二月廿日

山崎傳之備

一 同年同月廿日西日人定古乃出公書集

當月廿日大坂町奉河松平路同公知公波地

乃並公家集之古公今乃常世別可之集

此後乞一減流九表彈之願向古流罪

作舟有中後少乃長大坂表公中致公世辰

清庵中上公以上

一 不詳... 大流飛彈寺家集

二月廿日

日比野新七

今乃大坂町奉河所不常世別減流九之指

大人乃治古流罪... 作舟有欲別致賀

漢下... 山後... 目取... 近紅元鐵子

... 首涉道... 子... 知... 水海... 知... 業... 月

水... 才... 再... 取... 信... 海... 大... 紅... 卷

... 山... 存... 乃... 業... 知... 雅... 亦... 故... 音... 以... 前... 通... 流... 罪

... 差... 缺... 乃... 雅... 乃... 屆... 子... 世... 辰... 乃... 國... 海... 罪... 不

... 以... 信... 編... 乃... 怨... 乃... 以... 之

...

小鴻飛澤子家系

二月廿六日

日比世新七

一 同年四月廿六日 日人定上三十一

云月々富士と相見上る接人海と遠及と
城下より八里外に浦と申す上陸は船は
吉系村と申す所と申す船は長州境宇通
より右へ去ると退りて船は人取も少く
双方は長州人の船と申すは長州人取
との人及はと申す子と申す人取出張は仁事
取丸少く船は方付取と申す。日比と申すは遠

く船は追掛来る事あり 船中速く長州へ引取
中の強盗人とも取丸の得て 何れも内論は難
れし故あり存する 新表と申す 若國と申す
その一也 白倫常順と申す 船は内論は難
順月と入る 通河と申す 船は内論は難
り得て 兼伏は川取と申す 船は内論は難
り 船は内論は難 船は内論は難
無事なる得て 船は内論は難
院及び申す 船は内論は難
亀井法隆と申す

二月廿六日

山崎傳之助

一 同年同月廿六日申多事限之度定古流しお事
寄可達書付

堀田相模守

松平右京尼

久世謙吉

稻葉備中守

後一家来古流頭之 作付の人致れし角

中流し後有し少事是事之 作付の人の致れし角

以此七日前地也之格し事所も之を元之に有

石一也一差因取中し取取来也

一

二月廿六日

慶應元乙丑年四月朔旬櫻田邊下投文有之由右写

城西の隠士某 徳川家と憂ひ為し忠告せんとするを怒れども

其任よあり之閣老も亦て向を不好忠諫必納せしめんと欲せし

量り書を道路に投し衆人よ示を觀ら者莫く之を閣老

よ告げて幕府の危難を救めんを

閣老失職失策挙て最ふるかきと雖就中失策の甚

しきと爰に述て急難を救んとす

白川宮津西閣老上京しを奏ありけり一會衆と東下を

堂上へ送來以未お止るり其他猶あり爰に略す

柳近來 幕府衰弱人心不和此と騒擾の根元を

大樹公御幼年より天下を知らず、改令閣老の
意て、津成推立難キ、朽柄外夷頻り来舶し和親交
易、幕府許容し人心動揺物價沸騰す此時より臨て
此慮小来し、幕府を倒し自立此志ある者或ハ自己
の利潤を大しせんと量りて隠謀あるその尊攘を名と
て、幕府の罪を鳴らし

天朝の威を假りて無謀の兵を起さんとす名義正し
も似て其実奸謀なり、天下の危キ事累卵の如く殆三百
年代改令地の隔らんとする其間閣老失職失政多かり幸ハ
大樹公希世の津尊徳ありて深淵薄氷の危険を涉りて

不思義子今日の勢を得させん

幕府再振起弥増盛大なりんとす愚思へり、大なる哉開國
大なる哉航海富国強兵是より起る機會失ふべし

神祖此方中興の津鴻業

大樹公の津尊徳仰い辱し辱し、然るも、小量頑固
の徒或ハ奸人不鎖港攘夷を口実とて天下を横行し
自滅を招くを猶正義と称す愚賊ハ以て悉くとす
奸賊階を伺ふ宜敷
天朝を遵奉し列藩を威服せしめ浩然と津鴻業を可成
為立一大切要此時勢髪を握り哺を吐き三尺の劔を執

て天下を平治をへき最大事の時は嘗て百年因循よ出て
機會を失ふ事多し希勤交代妻子由府復古の正所置
し於てハ決して矢策よあつたを然りと雖不服の國も有
れ多閣老其事を貫徹す能ハざるんを従ふ許し守
く者ハ討るし時勢斯の如し高師を勤るをの定まに
あつたを送米ハ猶増加し崇尊を尽すへし天下平治人心
服従して右邊所置ハ時且小據えし今哉

逆鱗を促し尊王を辭き人心不服を招く此秋よあつた
會親東下力如き京師を空虚しして引合ふに似
て乳兒といふとこの頭を病しし歎息為さるをな

諸侯の敬言漸除くの策ハ可なりといふもいさゝか其機會
にあつたを閣老の愚劣斯くて甚だ思ふべきに此の
を聞て警歎し堪へず心志を碎きて探り索め聊其実を
得たる者ありと憚る事ありて名姓不詳不愛不記さす
和次よ述るを以て考ふへし

○西藩ハ大好羨あり種々の秘計を旋りて
幕府を離るる人心を激し天下を動らす其數十年外尊
攘を主張し内自己の欲を達せんとす或ハ勇威を示し
或ハ巧言令色を以てし表裏反覆神機妙算出沒不
思議凡眼を以て能見る事能ハず

幕吏終に彼ら街中より隔り彼に彼せしれ大害を醸せよ到
きし水長の暴徒の如き天下に大我を知らず小量頑固
自災を醸したる悪行の悪む一其愚ハ憐む一其奸侯
子比すれば其罪猶輕かり閣老昏醉して時機と失し
○宸怒に觸れ昏醉に醒めを危き故に天下累卵の
如し
七ヶ条の奏上果して行はれず時は奸侯人として京師に
以て之を納むる自今以後ハ警藩力を盡して
幕府費幣一に堪ふ止むを得しめて此奏あり願くハ

朝吏を補佐せんとい他いふべき事猶多し憚るはこれハ爰
は不記任向仕画あり之を見て考察せよ計此の如し
○清進登可は為在り是大概會たり必失不信する武

張弥着

公武清一和の根を堅うして諸藩の説離間の災ためん
ふ且國事に於て時と動轉するは其の廟議確乎と定む
○其も此一挙に河を鎖港の如きは其眼の者小兒といふも
其不可なるを知る閣老不可を以て縉紳家を説得を能く得
ざる乎是身と愛して恐懼を懐き詞を尽す能はされん
なり

皇國の安危 徳川家の皇座は関係するの大事件猶与すき
よあしをも身を殺して仁と爲るれ秋の多廉耻を知らずして各
と後世よ止む一機会と失ふとわかれ
○前条より危る如く 寺進叡の莫く大機会よりして閣老よ
失なり之より外一の大夫策あり
大樹公の伊留守と大老姫路侯小命一重大の
台命を下して委任せらる姫路侯何人そや臣下なる家
小身より続きたる行方才徳聞ゆる莫く是唐人に
伊留守中不慮の憂ありこの日諸侯此人の指揮を受けて
服従するもの有りや決して有るかす抑當今若

伊留守ハ

和宮より上ハ別る嚴小す一是又
敵慮を安んずる一端なり元より

伊留守ハ三藩の職掌水公の任之今水公慎中且当時其
任に當らす尾紀兩公の内よ任す一姫路の如きよ此大
任を授け閣老の失職至愚の魁たる一よ笑ふ局一ニ了
憂ふ局一三よ悲む一一日何を知らず其愚を笑ふ日何と
を憂ふうれひ眼前よあり閣老愚よりて不知逆徒の脱走
せし者多し府内小潜伏し虚に業して暴發せんとも
伊留守中必勝下に憂ありんく于時姫路侯の指揮に従ひ

奮戦尽力す所者ありんや 吾美を以て憂ふ曰何ぞ悲しむ重
大の 伊留守三藩に任せを以て下れ好路に委任せりと也三藩
の貴族を空位す
幕威を自軽うもや 閣老失政斯の如し徳川の天下久しかり
を以て 吾美を以て憂ふ
于時丁丑初夏日

四月十二日仙居より度戸

伊留守
仙居

見

徳川玄貞殿
仙居

平徳年
所名也

因所記右
所備

因
所備

所備

井伊掃部
柳原或記右備

松平伊賀守

牧野河内守

川友若使守

梅垣信隆守

川友備後守

打年丹波守

打年河内守

川友志摩守

右通守
作良長辰乃心於此通年

四月十四日自入廣聖日備

右通守
川友守

才立日所備揚之江軍口押 口試弱揚也

所備之節而凡下江軍法守

成以自甚辰命口了多進以事

四月

四月

四月五日

松平信智与

阿部忠房与

松方伊豆与

明年通

河内發法信并河内

古跡奥五隊

作

四月十日編

信智与及信

右目録上

世有

河内發法

作

河内發法信并河内

河内發法

思古以世有河内軍事自法信而

之想之抱括列者略防是也

河内發法

思古以世有河内軍事自法信而

寺一本在河内也虛傳之方為故平在

寺一本在河内也

右通句上丁末編

四月

四月十二日

河邊春

山崎

松平因房書

増山對馬書

同 十五日

松平或親書

酒井以內書

若良又雅書以為名代

河邊春書

作書

右河邊書院酒雅書以為名代

河邊春書
河邊春書

酒井雅樂書

古紙

河邊春

作書

古紙

河邊春

信長首領之書

也發長長之物是右

古紙中國四出九州

四月

之昭二丑年四月七日

九月

毛利方信文子

河邊春書

一
四月廿四日
世辰 河進發
長久保時之合 此書所記之
古 中國 四書 九章 易 禮 春秋 詩 書 經 傳

四月

一
古 國 日 月 人 心 傳

古 國 日 月 人 心 傳

世辰 河進發
長久保時之合 此書所記之
古 中國 四書 九章 易 禮 春秋 詩 書 經 傳

四月

一
四月廿四日

河進發

松平 下 信 守
松平 刑 部 左 輔
名 代
松平 信 守

河 井 右 衛 門 尉

古 國 日 月 人 心 傳
古 國 日 月 人 心 傳
古 國 日 月 人 心 傳

口使書

大分縣母

永井三之丞

関 保良

柳多太郎

村織三之郎

河内守長門守

守中守三郎

守中

右守中守長門守河内守長門守

守中

和國守

宋田日守

伊豆守國守長門守

右守中守長門守河内守長門守

口使書

河内守長門守

守中守三郎

右守中守長門守河内守長門守

井伊守部氏

一 月日

河内守長門守

守中守三郎

右守中守長門守河内守長門守

一 四月廿一日

一 四月廿六日 六月廿日

一 四月廿六日 六月廿日
一 四月廿六日 六月廿日
一 四月廿六日 六月廿日
一 四月廿六日 六月廿日

四月

一 四月廿六日

一 四月廿六日

一 四月廿六日

一 四月廿六日 六月廿日

一 四月廿六日

一 四月廿六日

一 四月廿六日

一 四月廿六日 六月廿日

一 四月廿六日 六月廿日

一 四月廿六日

一 四月廿六日 六月廿日

一 四月廿六日 六月廿日

一 四月廿六日

一 四月廿六日 六月廿日

同又云

同

同又云

同

同又云

同又云 同又云 同又云

古語 同又云 同又云 同又云

上清宮 同又云

同又云

加賀 同又云

古語 同又云 同又云 同又云

同又云

一 四月廿八日

阿部 同又云

同又云 同又云 同又云

同又云 同又云 同又云

同又云 同又云 同又云

同又云 同又云 同又云

同又云

同又云

同又云

金十枚
時鐘二枚

同又云

付書目

北条時義宛

今更

福代源一席

和國書付書目

付書

付書 所進書目
所留書目

北田時次郎

四月十七日抄年御書目

抄書 所進書目 所留書目

所進書目 所留書目

所進書目 所留書目

所進書目 所留書目

所進書目 所留書目

所進書目 所留書目

所進書目 所留書目

所進書目 所留書目

所進書目 所留書目

所進書目 所留書目

所進書目 所留書目

付書

細川致中

喜代原

一 同 廿日

吉田の所領屋... 中... 事... 如... 係...

細川致中

喜代原五月廿日

中... 係...

係... 係...

一 五月朔日

細川致中

某日

常... 係... 係...

古... 係...

之治二丑年四月二日

大目付
四月廿

河内發山法日 三月廿二日 思古志事

つとまふらふらふ華多日 四月廿三日 實備志

ふ威ふ虚解年九月廿日

年色一万石以上下法々々々々々々々々

四月

浪七百石

口側

法事

口側

古月

浪二百石

口側

浪四百石

口側

浪六百石

朝令 陽慶
陰軍 力並
大目付
瑞云 力
安云 力
少物 力

天保二十一年十月二十日

御用掛

根三右衛門

1052

因幡守

1053

1054

日三右衛門

1055

日三右衛門

清多郎

右衛門

左衛門

右衛門

右衛門

右衛門

右衛門

右衛門

因幡守

右衛門

右衛門

右衛門

因幡守

右衛門

右衛門

右衛門

右衛門

右衛門

右衛門

右衛門

右衛門

右衛門

右衛門

右衛門

浪二夏

口百

口百

全百

口百

作乾及

吾

口

中

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

表

中

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

同八十月

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日之...

日...
日...
日...

日...
日...
日...

日...
日...
日...

日...
日...
日...

日...
日...
日...

日...
日...
日...

日...
日...
日...

日...
日...
日...

日...
日...
日...

日...
日...
日...

日...
日...
日...

日...
日...
日...

日...
日...
日...

日...
日...
日...

日...
日...
日...

日...
日...
日...

日...
日...
日...

日...
日...
日...

日...
日...
日...

日...
日...
日...

日...
日...
日...

日
月

一

伊豆守殿様

大目付

葛原の
里麻の
多摩の
三浦の
伊豆

世帯 河内守 河内守 河内守
河内守 河内守 河内守 河内守
河内守 河内守 河内守 河内守

但裁許或は伊豆守の事

一 道中 河内守 河内守 河内守
河内守 河内守 河内守 河内守
河内守 河内守 河内守 河内守
河内守 河内守 河内守 河内守

甲

100

100
100
100
100

1000

1000

1000

1000

1000

1000

